

市民に寄り添いながら 夢と希望にあふれる 新しいまちの景色を創造する

2月26日、今津市長が令和8年度のまちづくりの基本的な考え方や重点的な取り組みをお伝えする「市政方針」演説を行いました。その内容をご紹介します。



道内の人口
上位10市の中で
最大となる
現金給付の
実現

●はじめに

昨年9月7日に行われました旭川市長選挙におきまして、市民の皆様から負託を受け、2期目の市政を担うこととなりました。選挙での得票率は71.2%に達し、報道機関の調査では、80%以上の方が1期4年間の市政を「評価する」と回答され、大変うれしく思うと同時に、その重責に改めて身の引き締まる思いです。これまで、前例にとらわれず、失敗を恐れず挑戦を続けてきました。



9/7再選後初登壇
日本を、北海道をリードする
「新時代・旭川」へ

その結果、市民の皆様から、「子育てがしやすくなった」、「旭川が楽しいまちになってきた」、「市の取組みが分かりやすくなった」など、さまざまな声をいただいています。確実に旭川は前進しています。2期目においても、さらなる挑戦を続け、市民の皆様とともに創り上げた100項目の公約を一つ一つ実現し、北海道、そして、日本をリードする「新時代・旭川」の創造に向けてまい進します。

●1期目の主な実績、そして、 Beyondあさひかわ予算

1期目は年度ごとに「新市政スタート予算」、「旭川再起動予算」、「旭川新時代・創造予算」、「暮らしの安心と未来への投資両立予算」とそれぞれ明確なテーマを掲げ取り組んできました。この間、13年ぶりの福祉灯油の実施、除排雪先進都市の積極的な展開、高校生までの医療費無償化、小中学校をはじめとしたエアコン設置、旭川空港初のLCC就航、京都市に次ぎ日本で2番目となるスイス観光賞の受賞、冬まつりへのドラゴンクエストの参加、日本一の窓口に向けた取り組み、いじめ防止対策「旭川モデル」の構築、健幸福祉都市の推進、1万5千人を動員した「旭川100フェス」の開催、北口榛花選手の凱旋パレードの実施、30年間で最多の企業誘致、有機農業やスマート農業の積極的な推進、旭川大雪圏域連携中枢都市圏の形成や旭川大雪圏東京事務所の開設、また、

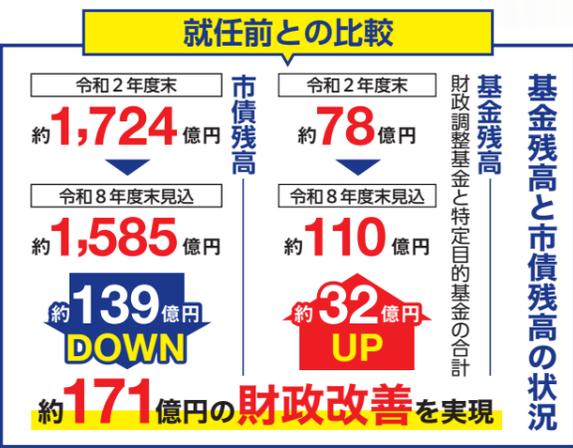
01 子ども・子育て・教育

はじめに「子ども・子育て・教育」です。小学校の給食費については、旭川初の無償化を実現します。国費の助成は年額5万7千200円ですが、賄いきれない本市の給食費との差額分1万6千円を、公費で負担することとしました。これにより、教職員の給食費徴収事務がなくなりますので、負担軽減にもつながります。また、中学校の給食費については、令和7年度、8年度値上げ分を独自支援します。いじめ防止対策「旭川モデル」の推進に当たっては、校内教育支援センターを新たに3校増やし、計5校とし、不登校対策を一層進めます。また、配置するスクールライフサポーターは、いじめ対策官を兼務します。今年度、中核市長会で私が座長となり取り組んできた「いじめ・不登校対策」プロジェクトチームを、本市が主体となりさらに発展させ、情報共有や国への要望等に市町村長が連携して取り組むため、「(仮称)いじめ防止対策首長連合」を発足します。不登校児童生徒への柔軟な学びの確保や、社会的自立への支援を目的と



子どもたちが元気にすくすくと
成長できるように^^

また、新生児の聴覚検査費用の助成を6千円に倍増するとともに、18歳未満難聴児の補聴器給付制度の拡充を行い、言語・コミュニケーション能力の発達を支援します。幼稚園、保育所等の物価高騰対策として、幼稚園等に児童送迎車両1台当たり10万円を支援し、保育所等においては、児童1人当たり5千円の食料費を支援します。



今後は、確実性が高く安全な国債の購入による基金の運用といった新たな財源確保にも取り組み、将来を見据えた財政基盤の確立を進めます。2期目の本格的なスタートとなる令和8年度は、1期4年間の挑戦をさらに加速し、旭川の可能性を最大限に発揮すべく取り組みを進めます。テーマは「Beyondあさひかわ」です。これまでの旭川の概念をはるかに超えていくことを目指し、「Beyondあさひかわ予算」を編成しました。以下、主要10項目について申し上げます。

02 健幸福祉都市

次に「健幸福祉都市」です。あさひかわ健幸アプリは、スタンプラリー機能を実装し、イベントを通して健康寿命の延伸につなげます。

乳児等のRSウイルスによる下気道疾患を防ぐため、妊婦の方を対象に予防接種費用を全額助成します。インフルエンザワクチンについては、75歳以上の方に高用量ワクチンも選択できるよう接種費用を助成します。

胃がんの早期発見・早期治療を推進するべく、50歳以上の方を対象として胃内視鏡検査を実施します。さらに、国民健康保険被保険者への特定健診・がん検診を無償化します。

介護認定調査については、調査のスピードアップに向けて、直営調査員を2名増員することに加え、委託調査の単価を増額し、安心して介護サービスを受けられる体制整備に努めます。

高齢者の自動車事故を防ぐ一助として、運転免許証自主返納者に、寿バスカードの交付時負担金を12か月分助成するとともに、サポート事業協力店舗の拡大を目指します。

旭川市手話条例制定10周年を迎える記念イベントとして、聴覚障害に関する映画上映や記念講演等を開催し、手話への理解と普及の促進を図ります。市立旭川病院については、厳しい経営状況にあります。病棟削減による人件費の抑制や病床稼働率の向上、紹介による入院患者数の増加、国費の獲得等に努め、今後も地域医療における役割や機能を維持できるように、設置者として責任を持ち経営改善を図るとともに、医師会や基幹病院との連携を深めます。



100歳の方々へ祝状・記念品を贈呈
いつまでもお元気でお過ごしください

03 除排雪・防災・環境

次に「除排雪・防災・環境」です。

除排雪については、実績を踏まえた排雪費用の見直しなど、当初予算額37億6千100万円を計上し、ザクザク路面対策の強化や、北海道との交換除雪、コラボ排雪等連携協定に基づく取組みを進めます。

また、積雪センサー・カメラの拡充に加え、人感知システムを導入し、作業の効率化と安全性の確保に取り組みます。

さらに、道内の主要都市で初となる除雪車両の購入補助制度の創設や、市民の皆様にも除雪マナーにご協力いただくなど、持続可能な除排雪体制を構築します。

また、シンポジウムの開催を通じ、ヒグマに関する啓発強化と共生を図ります。

市民や観光客の安全安心の確保のため、繁華街に設置している防犯カメラを刷新し、新たに神居古潭およびJR旭川駅南広場の2箇所に防犯カメラを



北彩都ガーデンで桜の植樹

設置します。地震や豪雨災害に対する事前防災体制の充実に向けて、避難所における防災備蓄を強化するとともに、高齢者や障がい者、女性への対応として、段ボールベッド、パーティションテント等の充実を図ります。

防災庁の地方機関誘致については、本年1月に直接、木原総管内閣官房長官に要望を行いました。引き続き、上川管内の首長や経済界、議会等が一体となって積極的な誘致活動を進めます。



除排雪は国・道と市が、がっちり連携！
ザクザク路面対策など、しっかり実施！

04 地域経済活性化

次に「地域経済活性化」です。

開港60周年を迎える旭川空港の利用促進のため、関西路線の拡大や国際線の新規就航・再開を目指したプロモーションを展開します。

地域公共交通について、物価高騰に対する支援を継続するとともに、バスやタクシー等の公共交通の利用促進を通じた事業者支援を行います。

北海道新幹線旭川延伸の実現に向けて、上川管内の自治体と経済界が力を合わせ、要望活動を実施することに加え、気運の醸成を一層図ります。

あさひかわ菓子博のレガシーとして、「(仮称)アフター菓子博あさひかわ2026」を5月8日から3日間開催し、菓子博で人気を博した赤福をはじめとした全国の



あさひかわ菓子博2025
彬子女王殿下のご臨席を賜り開催

17日間で
約26万人の
ご来場！

ご当地菓子の販売等を実施するとともに、地元の名産やスイーツのPRを積極的に行い、「スイーツシティ旭川」としての魅力を高めます。

旭川で初となる「ベトナムフェスティバル2026 in北海道旭川」を9月5日、6日に開催します。ベトナムの政府関係者も本市を訪れる予定であり、両国の交流を深め、多くの方がベトナムの文化に触れ、楽しんでいただけるよう取り組みます。

本市が立候補し、北海道初となる「中核市サミット2026 in旭川」の開催が決定しました。全国の中核市から、市長、議員、職員が本市を訪れます。経済波及効果が大きい期待されるばかりでなく、関係者との交流により、旭川の魅力と文化を発信するまたとない機会と考えています。

旭川スタイルとして多くの市民の皆様にご参加いただけるよう準備を進めます。

さらなる地域経済の活性化に向けて、ラピダスをはじめとする半導体関連産業との連携を目指した取組み、データセンターの誘致活動、新たな産業団地造成に向けた調査等を引き続き進めます。



旭川駅で約250点のマイセンを
常設展示します

05 観光・文化振興

次に「観光・文化振興」です。

私が本市のために寄贈をお願いし、福嶋康博さん、美知子さんご夫妻から託されることになったドイツの高級磁器マイセンについては、年間300万人が利用する旭川駅で常設展示します。約250点のマイセンを全て展示することで、デザイン都市としての価値を高め、文化の振興と交流人口の拡大につなげます。

開催5周年となる旭川ミュージックフェスティバルは、音楽大行進を皮切りに、グルメリレーとの連携、観光大使の出演、市民バンドの参加など、さらに賑やかなイベントとなるよう準備を進めます。

アイヌ文化を活用した観光振興の推進に向けて、神居古潭にデジタルセンターの設置や魔神伝説をモチーフとしたARの基盤を整備するとともに、アイヌ古式舞踊のステージイベント等を実施し、多くの観光客を呼び込むよう取り組みます。

旭川未来会議2030で提案のあった「(仮称)文化芸術マルシェ」を開催し、さまざまなジャンルの文化芸術の交流を進めます。



旭川未来会議2030
で提案のあった「(仮称)文化芸術マルシェ」
を開催し、さまざまな
ジャンルの文化芸術の交
流を進めます。



北海道一のイルミネーションを
目指します！

カムイスキーンクスについては、全国有数の降雪量と良質な雪質を生かし、スノーボードやアルペンスキーのナショナルトレーニングセンター競技強化拠点の指定を目指します。また、機能の充実と利用客のサービス向上に努めるため、第5ペアリフトの改修や休憩所等を備えた施設を増設します。

「ユキノワアサヒカワ」雪と光がつなぐ街」は、予算を倍増し、魅せ方をさらに工夫するなど、北海道一のイルミネーションを目指します。

「北の恵み あさひかわ食べマルシェ」では、20時まで営業するエリア「(仮称)ヨルマルシェ」の新設に加えて、子どもたちが食を学び、体験できる「(仮称)モグモグキッズ広場」を実施するなど、さまざまな年代の方が楽しめるイベントにバージョンアップします。

新たな財源となる宿泊税を活用し、「コンベンション誘致推進事業補助金」を拡充するとともに、観光事業者へのDX支援、観光プロモーションの強化を図ります。今後も、観光振興につながる積極的な活用を検討します。

06 スポーツ王国旭川

次に「スポーツ王国旭川」です。

子どもたちのスポーツ活動や部活動の経済的負担を軽減するため、各種補助制度について、大会派遣に係る補助の拡充を行います。併せて、インターハイ等の全国大会に出場する際の支援のさらなる充実を検討します。

旭川が誇る大投手ヴィクトル・スタルヒン氏生誕110周年記念事業として、堀内恒夫さん、谷沢健一さんをはじめ、往年のプロ野球名選手が集うドリームベースボールや、毎年開催している星野伸之さんによる野球教室に加え、読売ジャイアンツアンダー15ジュニアユースチームが旭川合宿を行います。



ファーム公式戦 8/16北海道日本ハムファイターズ vs 東京ヤクルトスワローズ 開催！

(昨年の様子)

大会が開催されます。さらに、全国から600人以上が集まる、北海道で初となる全日本選抜選手権大会が開催されます。



首長として、アソビ初の乗車体験 重度・重複障害のある方でもジョイスティックや息で操作できる「テトラスキー」

昨年のデフリンピックで多数のメダルを獲得した陸上日本代表や、慶應義塾体育会野球部、パラノルディックスキーの合宿に加え、レスリングメダリストや、日本航空をはじめとする連携企業の所属アスリートによる講習会、小中学生等との交流イベントを通じてスポーツを生かした青少年育成と健康づくりや選手の技術力向上を進めます。また、Jリーグキャンプの誘致活動を推進するとともに、市民と一体となつてヴォレアス北海道を盛り上げます。

北口榛花選手の顕彰モニュメントについては、旭川市政アドバイザーの藤本壮介さんにデザインを依頼し、スポーツ王国旭川にふさわしい新たなシンボルとなるよう取組みを進めます。

08 デザイン・まちづくり

次に「デザイン・まちづくり」です。

旧東海大学旭川キャンパス施設については、利活用の公募を行った結果、ホテルやレストラン、ヴィラタイプの宿泊施設、森全体をミュージアムに見立てたエリアを整備する計画の提案があり、国内外から多くの観光客が訪れ、地域経済をけん引する施設となるよう事業者と協議を行います。

デザインシステムについては、今年1月に市民利用を開始しました。今後も企業や団体、市民の皆様にも積極的にご利用いただくなど、デザイン創造都市としてのまちの一体感を創出します。



毎年好評を博している「あさいち」“朝”を通じたまちの活性化につながっています

好評を博しているドッグランについては、開設期間を延長することに加え、ドッグプールの設置に向けた調査を実施します。

フードフォレスト旭川構想の一環である「あさいち」については、これまでの旭川にはなかった朝のイベントとして高い評価を得ていることから、開催回数を8回に倍増し、旭川の食の魅力をさらに発信することに加えて、朝の時間を豊かに過ごす機会を提供します。

また、北彩都ガーデンに給水施設を整備し、イベントを開催しやすい空間づくりを進めます。これまで実施してきた買物公園の社会実験を踏まえ、ワンストップ申請で買物公園の活用ができる仕組みの導入を図ります。さらに、市民の皆様や商店街の方々が思い描く将来像を明確化し、市民にとって魅力ある新たな買物公園を目指します。

「優良建築物等整備事業補助金」により、中心市街地に投資を促すため、大規模な市費の投入と国費を最大限活用する大胆な財政出動を行い、オクノ跡地、銀座通三番館ビル等の再整備を支援します。また、令和6年度に創設した旭川市独自の「旭川市都市機能施設誘導促進補助金」により2条通7丁目、8丁目の宿泊施設整備を支援します。

07 農業・産業振興

次に「農業・産業振興」です。

新規就農者の確保のため、道内トップクラスの「新規就農奨励金」を創設するとともに、スマート農業や省力化技術の導入に係る支援を拡充し、持続可能な農業を推進します。

また、ICT技術でハウス内の温度や湿度を自動管理する環境制御装置や、耐久性ハウスの導入、アライグマ等による食害防止のための電気柵等の機器導入に係る補助金を創設します。



市内4JAの皆様と旭川産米を鈴木知事にPR 今後も魅力を発信し、さらなる消費拡大を目指します

「地域材活用住宅建設補助金」に新たに除却工事に係る加算を追加し、幅広いニーズに対応します。中小企業の持続的な成長を支援するため、国の「100億宣言制度」の活用を目指す企業の事前調査や普及活動を行い、地域経済をけん引する企業の育成を図ります。企業の商品開発や販路拡大を進めるため、地場産業振興センターと産業創造プラザが連携した支援を行うとともに、「旭川市特産品開発支援補助金」を新設し、旭川が全国に誇るブランド商品を創るための取組みを開始します。

中小企業のA・D X活用に向けて、AI技術導入等の伴走支援およびデジタルツール導入を支援する補助金を創設します。また、求職者の短期雇用仲介サービスに対する手数料を助成し、正規雇用した場合にはさらに補助金を支給することにより、企業の人材不足等への支援を行います。

09 女性・若者

次に「女性・若者」です。

女性活躍・男女共同参画を引き続き推進するとともに、キャリアの保健室事業においては、女性の就労継続や企業の人材定着を支援します。加えて、生活に困窮されている方を対象に、所得向上に向けた基礎知識を学ぶ講座を開催し、経済的自立を後押しする取組みを進めます。

若者に対する包括的な相談支援体制を構築するため、新たな窓口の設置やヤングケアラーコーディネーターによる相談支援を実施します。旭川から世界で活躍するスタートアップの創出を目指し、経済界、起業家、大学、金融機関等の連携の下、拠点整備に必要な機能の検討を行い、誰もが大きな夢に向かって挑戦できる環境づくりを進めます。



10 市役所改革・市民参加

次に「市役所改革・市民参加」です。

総務省が昨年公募した「自治体フロントヤード改革モデルプロジェクト」の中でも、より市民の利便性向上に直結する、上限1億円の「オンライン手続の徹底を目指すモデル」に全国からの応募で3事業のみが採択される中、本市の提案が高い評価を受け、その一つに選ばれました。

ふるさと納税については、毎年度目標額を達成しており、全国順位50位、令和8年度50億円を目標に、返礼品の強化や効果的な広告方法の検討を進めます。

職員の働きがい改革については、「人材マネジメントシステム」を導入し、AIを活用した人事業務の効率化、職員の意欲を高める適材適所の人員配置を行うとともに、懸案課題に取り組み職場が職員を募集するアナザーエックス制度、若手職員から提案のあった、職員が希望する職場に応募できるフリーエージェント制度、一般職の給与に人事評価を反映させる新たな制度の導入を目指します。

また、今年度試行導入したテレワーク、時差出勤、フレックスタイムを本格運用に向けて加速化し、多様な働き方を実現します。

市民や企業からの声を市政に反映させるため、私自身が各地にお伺いし、市民と双方向に意見交換を行う「まちづくりタウンミーティング」を開催するとともに、さまざまな企業や団体の皆様と意見交換を行っていきます。さらに、YouTube、be SNSを活用し、市政情報の発信と市民とのコミュニケーション強化を図ります。

持続可能な行政運営の遂行を目的として、平成20年以来的の大規模な機構改革を実施します。

「子ども・女性・若者未来部」、歳入の確保と歳出管理等を一体的に進める「行財政改革部」、旭川の魅力を戦略的にPRする「観光スポーツ・シティプロモーション部」、デザイン思考で各部にわたがる市政課題の解決を図るとともに、旭川の強みを分析し政策立案に活かす「デザイン・マーケティング」を創設します。



旭川市民文化会館の建替えに向けた取り組みも、市民の意見をしっかりと取り入れ、基本計画の策定を進めるとともに、市民サービスの持続的な提供のために、近隣市有施設の集約の可能性に関する検討を行います。

●大規模施設の整備

老朽化により更新の時期を迎えている大規模施設等の整備については、本市の将来にとって重要な課題でありますので、使命感をもってしっかりと取り組みます。

まず、花咲スポーツ公園の新アリーナは、非保有方式とすることを決定しています。現在、整備を行う民間事業者の公募を実施しており、事業者からの発意による長期的な視点に基づく応募があった場合には、内容の妥当性を見極めた上で、本年夏頃に優先権者を決定し、その後、基本協定の締結等に進む予定です。

東光スポーツ公園複合体育施設については、本格的な整備に向けて、実施設計や地質調査を着実に進めます。小中学校のエアコン整備は、令和8年6月に全小学校、令和9年6月には全中学校も完了するよう取組みを進めており、公共施設についても、15施設にエアコンを順次整備し、利用される市民や働く職員の実環境改善に努めます。

市民生活に不可欠なごみ処理施設の整備については、近文清掃工場の基幹的設備改良工事の完了および廃棄物最終処分場の整備に向けて、環境省や防衛省の交付金を活用し、着実に進めます。

上下水道事業においては、施設の更新や耐震化を計画的に進め、市民の重要なライフラインを維持します。

また、日本下水道協会の副会長として、全国の自治体と連携し、財源の確保等の支援について国への働きかけを行います。

旭川市民文化会館の建替えに向けた取り組みも、市民の意見をしっかりと取り入れ、基本計画の策定を進めるとともに、市民サービスの持続的な提供のために、近隣市有施設の集約の可能性に関する検討を行います。

●私に課せられた使命

以上、令和8年度「Beyondあさひかわ予算」について、申し上げます。

最後に私が大切にしている言葉を二つご紹介させていただきます。

一つ目は「想像できることは、必ず創造できる」

二つ目は「何事も成功するまでは、不可能に思えるものである」という言葉です。

100項目の公約には市民一人おひとり期待し想像する、未来の旭川に対する願いが込められています。公約実現への道のりは、決して平坦なものではありません。しかしながら、不可能を可能にし、今までの旭川を概念を超えていく、夢と希望にあふれる新しいまちの景色を創造することこそが、私に課せられた使命であると考えています。

「Beyondあさひかわ」の実現に向けて、議会、職員、そして市民の皆様と共に、知恵を絞り、汗を流し、情熱をもって、さらなる挑戦を続けていきます。

どうか、本市の発展のため、特段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、令和8年度の市政方針とします。



「想像できることは、必ず創造できる」
「何事も成功するまでは、不可能に思えるものである」
私の好きな言葉です

令和8年度教育行政方針

はじめに

「主体的に学び力強く未来を拓く人づくり」を基本方針とし、教育行政を推進してまいります。

学校教育に関して

第2期旭川市学校教育基本計画に基づき、3つの重点的な取組みを進めます。

①子どもたちに未来を生き抜く力を育む

個人の可能性を最大限に伸ばすため、従来の画一的な教育から脱却し、新たな学びの場を創出します。国の制度を先取りして、英語や理数、情報といった授業の充実に取り組み特例校として、「スーパースクール」の設置を検討していきます。地域資源を最大限に生かし、英語によるコミュニケーション能力や探究力の育成を通じて、特色ある教育活動に先導的に取り組み、その成果を市内の学校に還元します。

いじめ対策に関して

は、学校での組織的な対応や支援の充実を図るため、これまでの不登校重大事態の調査結果を踏まえ、きめ細かな再発防止に取り組み、「旭川モデル」を着実に推進します。また、校内教育支援センターに関しては、いじめ対策官を兼務するスクールラ



組みます。



イフサポートの配置を2校から5校に拡充し、さまざまな課題を抱える生徒のニーズに応じ、不登校への対応を充実します。

また、誰一人取り残さない学びを保障するため「学びの多様化学校」いわゆる不登校特例校の設置に向け、本市の特色を生かした教育課程の編成や学習環境を整備し、市立での小中9年一貫の義務教育学校の特設校として、準備を進めます。

②子どもたちの学びの環境を整える

物価高騰が続く中で、小中学校の就学に必要なスキーや制服、学用品に

関しては、「子ども未来リユースバンク」を創設し、保護者の

経済的負担の軽減を図ります。新年度は不要となった

家庭から、これから必要とする家庭へ譲り渡す仕組みを作り、試行的に実施します。

部活動等で全道・全国大会に出場するため、派遣費が大きな負担となっているため、派遣費への補助を増額し、児童生徒の体育文化活動への支援に取り組みます。

③子どもたちをともに育て豊かな学びをつくる

教育課題が複雑・多様化している中、教職員が健康で働きがいをもって児童生徒と向き合える時間が必要です。引き続き、支援スタッフの配置や校務DXにより業務適正化を進め、保護者や地域の理解と協力を得ながら、学校における働き方改革を進めます。

社会教育に関して

旭川市社会教育基本計画に基づき、5つの重点的な取組みを進めます。

①市民一人一人の主体的な学びの機会の充実

大雪山カムイミナタラジオパーク構想に関しては、講座やツアーの開催など地域の魅力を伝える活動を推進し、日本ジオパークの認定に向けて取り組みます。



子どもの読書活動に関しては、「旭川市子ども読書活動推進計画」に基づき、それぞれの発達や特性に応じ、自ら読書に親しむ環境の整備を進めます。

②市民の学びを支える環境の整備

市民文化会館の建替え整備に関しては、イメージモデルの活用などによりお寄せいただいた多様なご意見を踏まえ、引き続き丁寧な議論を重ねながら、令和8年度の基本計画策定を目指し、取組みを進めます。

また、昨今の記録的な猛暑を受け、公民館で利用率の高い貸室にエアコンを整

備します。

③地域における学びの循環

シニア大学では、学生が社会の担い手として、地域に学習成果を還元できる力リキユラムを編成します。

④市民の心を豊かにする文化芸術活動の充実

青少年の文化芸術活動を支援するため、部活動等の全国大会遠征費用への補助を拡充します。

未来会議2030での市民提案を受け創設する「(仮称)市民芸術マルシェ」に関しては、市内の文化芸術団体に対するヒアリング調査や屋外イベントの試行など、令和9年度の開催に向けた検討を進めます。

⑤郷土文化の保存・活用と郷土愛の育成

アイヌ施策に関しては、「旭川市アイヌ施策推進地域計画」に基づき、アイヌ伝承舞台の一つである神居古潭で、アイヌ団体に観光案内等の運営を委託するビジターセンターを設置します。

博物館では、リニューアルに向け、旭川の歴史・文化・自然に関する展示内容の充実とともに、ジオパーク構想の要素を取り入れた検討を進めることで、地域の理解や郷土愛の醸成に資する施設を目指します。

むすび

市長部局や地域社会との連携の下、本市の教育の発展に向け全力で取り組んでいきます。



市政方針



教育行政方針